

平成 17 年 3 月期第 3 四半期決算説明会

平成 17 年 1 月 21 日 16:00 ~ 17:00

於 東京証券取引所東証ホール

お断り：このメモは、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、説明会で話したことの全てを一字一句書き起こしたものではありません。当社 IR グループの判断で、簡潔にまとめさせていただきます。ご了承ください。また、最終頁の注意書きもあわせてご覧ください。

以下文中で、2Q、3Q、4Qとはそれぞれ第 2 四半期（平成 16 年 4 ~ 6 月）、第 3 四半期（同 10 ~ 12 月）、第 4 四半期（平成 17 年 1 ~ 3 月）のことです。また、EO はエレクトロオプティクス部門の略称です。

【CFO 江間より決算概要説明】

1) 3Q 実績

- 売上高： 777 億 8 千 6 百万円 (前年同期比、13.2%増)
 - 営業利益： 216 億 5 千 2 百万円 (同、22.5%増)
 - 経常利益： 223 億 1 千 4 百万円 (同、30.6%増)
 - 四半期純利益：161 億 2 千 3 百万円 (同、54.7%増)
 - ・株当たり四半期純利益：144.82 円 (同、51.14 円増)
- 総資産 3,297 億円、株主資本 2,601 億円、株主資本比率 78.9%

2) 為替の影響

(1) 当四半期の売上高・損益を、前年同期の為替レートで換算した場合の金額とその差額

科 目	当四半期レートで換算	前年同期のレートで換算	差 額
売 上 高	77,786 百万円	77,539 百万円	247 百万円
営 業 利 益	21,652 百万円	21,806 百万円	154 百万円
経 常 利 益	22,314 百万円	22,452 百万円	138 百万円
四 半 期 純 利 益	16,123 百万円	16,295 百万円	172 百万円

(2) 主要通貨の換算レートと前年同期比変動率

主要通貨	当四半期為替レート	前年同期為替レート	変 動 率
US ドル US \$	104.52 円	108.46 円	3.6% (円高)
ユーロ EURO	137.95 円	130.22 円	-5.9% (円安)
タイ・パーツ BAHT	2.62 円	2.72 円	3.7% (円高)

売上高は 13.2%の増収ですが、為替の影響が 0.4%押し上げていますので、昨年と同じレートで比べた時の事業活動による増収率は 12.9%になります。12.9%を構成する事業の内訳ですが、EO が 11.6%ですので、3QもEO の売上の伸びがグループを引っ張っていると言えます。

営業利益は 22.5%の増益ですが、こちらは、為替の影響で逆に 0.9%のマイナスと出ていますので、事業活動の部分では 23.3%の増益でした。この部分はEO が 23.2%の増益で、やはり全体を引っ張っています。

3) 持分法投資利益

営業外収益の持分法による投資利益は 13 億 4 百万円で、これは日本板硝子(株)と合弁していま

す NH テクノグラス㈱というフラットパネルの硝子を造っている会社ですが、当社が 50%の持分を持っており、NH社の利益の50%がここに出ています。前年同期比で10億円の増益となります。

4)キャッシュフロー

・営業活動によるキャッシュ・フロー：	126 億 2 百万円
・投資活動によるキャッシュ・フロー：	102 億 8 千 4 百万円
・財務活動によるキャッシュ・フロー：	65 億 3 千 7 百万円
現金及び現金同等物期末残高：	909 億 2 千 5 百万円

営業活動のキャッシュフローが126億円ですが、税金等調整前の純利益215億円と減価償却費53億円を足しますと268億円になります。一方、商いが膨らんでいますので売上債権が増加し、棚卸資産も若干増加しますので、その分がキャッシュとして出て行きます。それから法人税等の支払いが75億円ほどあります。3Qは賞与も払うし、法人税も払う期ですので、これを差し引くと営業活動のキャッシュフローが出てきます。

5)税効果会計

・3Qの実効税率は25.0%になりました。海外連結子会社の税率差異が14%で、これが実効税率を引き下げる大きな要因になっています。

6)セグメント情報

・連結売上高で前年対比90億円増加しました。そのうち78億円がEO、ホトニクスは13億円、ビジョンケアは9億円、ヘルスケア8億円で、EOが大部分を占めています

・営業利益の前年対比の増加額は39億73百万円でした。EOで38億円、ビジョンケアで3億円、ヘルスケアで3億6千万円となっています。

・3Qの営業利益率は、EOが37.3%。2Qは40%でしたので少し落ちました。ビジョンケアは3Qで20%になりました。これらは3ヶ月の実績ですので、今後も増減があります。

7)製品ごとの売上高伸び率

製品群	前年同期(3Q) 対比伸率(%)	直前四半期(2Q) 対比伸率(%)
半導体製造用マスクブランク	12.8	-1.4
半導体製造用フォトマスク	12.2	5.1
液晶用フォトマスク	17.3	-8.0
HDD用ガラスディスク	94.3	8.8
光学レンズ・光学ガラス	6.8	-2.8
メガネレンズ	-3.2	-0.6
日本国内	7.1	-6.9
北米	-7.1	-10.6
欧州	-12.1	11.5
アジア	9.8	-1.8

8) 4Qの予想

前年同期比較

(単位：百万円)

項目 \ 期別	当第4四半期予想 自平成17年1月1日 至平成17年3月31日	前第4四半期 自平成16年1月1日 至平成16年3月31日	前期比増減率 (または額)
売上高	74,766	71,057	5.2%
営業利益	19,219	19,551	-1.7%
経常利益	20,415	19,068	7.1%
四半期純利益	13,983	10,205	37.0%
1株当たり四半期純利益(円)	125.03	91.28	33.75

直前四半期(当第3四半期)比較

項目 \ 期別	当第4四半期予想 自平成17年1月1日 至平成17年3月31日	当第3四半期 自平成16年10月1日 至平成16年12月31日	前期比増減率 (または額)
売上高	74,766	77,786	-3.9%
営業利益	19,219	21,652	-11.2%
経常利益	20,415	22,314	-8.5%
四半期純利益	13,983	16,123	-13.3%
1株当たり四半期純利益(円)	125.03	144.82	19.79

<参考：通期(平成17年3月期)の業績予想>

(単位：百万円)

項目 \ 期別	当期予想 (平成17年3月期)	前期 (平成16年3月期)	前期比増減率 (または額)
売上高	306,000	271,443	12.7%
営業利益	85,000	68,166	24.7%
経常利益	89,500	66,554	34.5%
当期純利益	63,000	39,548	59.3%
1株当たり当期純利益(円)	568.61	350.96	217.65

【CEO鈴木より第3四半期の業績概況の説明】

半導体製造用ブランクス

当3Qでは、ミドルエンドの製品の数量が減少した代わりに、位相シフトマスク用ブランクスなど高単価の製品が増加しました。

得意先で300mmウェハのラインが立ち上ってきて、300mmとか先端ライン向けの需要が堅調でした。

・4Qは、3Qと同様、数量は減少しても位相シフトマスク用が増えて単価は上がるという現象はもうしばらく継続すると思われます。

ただ、東南アジア向けの販売のウェイトが増えてきているので、旧正月の影響が心配です。

半導体製造用フォトマスク

大きな変化は無かったです。LSIマスクの市場は割と変化が大きいですが、当社はシェアが小さいので、あまり影響を受けずに淡々とやっていけるのかもしれませんが。

- ・3 Qは、フル生産状態でした。売上の伸びにはあまり伸びていませんが量的に一杯でした。
- ・4 Qは、LSI マスクの市場は少しづつ立ち上ってきそうで、半導体が底を打ったとある意味では思えます。急に良くなるということではなく、先が少しづつ見えてきたという感じです。

液晶用マスク

- ・2 Q対比でEO の売上を落とした原因の一つです。
- ・アジアの得意先が12 月決算ということで、12 月中旬過ぎから突然オーダーが止まりました。そのため、12 月の単月の売上を前年同期対比で落としたというのが一番の原因です。1 月に入った途端に注文が入ってきて、いきなりキャパが一杯になり、お断りしている状況です。
- ・マスク業界のキャパも次第に増えてきていますし、以前みたいにモノが逼迫している状態ではないので徐々に価格圧力はきてます。

HDD用ガラスディスク

- ・2.5" (インチ) はノート用が非常に好調。本来3 Q途中まで良くて、その辺から失速していくのですが、今年はクリスマスを過ぎてもずっとフル稼働状態が続いています。
- ・1.0" の ipod mini 用は引き合いが非常に強い。
- ・当社は、研磨したガラス基板であるサブストレートの販売と、それに磁気膜を付けたメディアの販売があり、単価は当然違います。今まではどちらかというとメディアが主体で、サブは量的には少なかったが、3 Qから急速に逆転しました。増えている量のほとんどがサブ。
- ・1.0" は、数量は増えているが平均単価は下がったという感じ。1.0" は伸びてはいるが、2.5" と比べるとまだかなりボリュームは小さい。
- ・4 Qを考えると、本来は調整期ですが、逆に3 Qよりかなり生産量が増えそう。少し造りすぎていないかなという印象です。

光学レンズ

- ・これから一番問題なのは光学関係。3Qはそれほど極端には悪くなかった。変調そのものはもっと前から来ていて、10 月くらいから新規オーダーは止まり、11 ~ 12 月は受注残を製造・出荷していたという感じです。
- ・デジカメは 4 月くらいまで深刻な調整が入ると思っています。もともと調整は入る前提で考えていたのですが、現実のものとなると痛いなという感じです。
- ・プランとしては、そこにカメラ付き携帯用のレンズの生産を始めてデジカメの減少分をカバーしようと考えていました。実際12 月から量産ベースの生産を始めたのですが、数量が意外と立ち上がりが遅れているという感じ。すでに単価が下がっている。さらに意外とスペックが厳しくて難しいと色々問題があり、4 Q でデジカメの減少分をカバーするほどではなさそうです。

ビジョンケア (メガネレンズ):

- ・この事業は季節性があり、3 Qを2 Qと比べても意味がないし、前年同期はドイツの特需というのか保険制度が変わるので駆け込み需要があったため、前年同期比では売上が減少していますが、

そんなに悪いイメージではありません。

去年の頭から収益的に少し問題があると思っており、色々な手を打ってきて、やっと巡航的に収益を確保できる構造ができあがってきました。これから前向きな仕事がしっかりできそうな雰囲気になってきました。

前年対比としては、ヨーロッパはもうしばらくしないと前年を越えてこないでしょうし、アメリカは為替でやられているが、4Qは悪くないと思います。シーズンのにも4Qが一番良くなると思います。

全体の利益率について

・E Oの利益率が下がっています。

一番効いているのは、中国・台湾・タイとかで、新しい工場とか増産部分を立ち上げていて、売上は計上されていないけど、費用だけ計上されているという点です。製造費用にらず管理費用に計上されていて、それが営業利益を押し下げていると思われる。

現金の使い道

・バランスシートで、キャッシュが増えてきました。設備投資やM&A等、使う見込みはあるのですが、それでも余剰が出そうなので、何らかの形で株主さんに還元したいと思います。取締役会の承諾が必要ですが、増配や自社株の取得等を検討していきたいと考えています。

【質疑応答】

Q：4Qは(悲観的な)お話の割には、そんなに予想の数字が悪くない感じがするが？

A：中間決算発表が終わったあとに、アナリストコンセンサスとして、今期の業績予想が、売上高が3090億円、当期利益が620億円というような数字が出ました。それに対し、売上は(コンセンサスが少し高い)当期利益は少し低い」とコメントしましたので、アナリストの皆さんは市場を良くご存知だろうという前提で、皆さんが作った数字を充分参考にさせていただいて4Qの見込みを作りました。

Q：来期増収増益になるとしたら、何が引っ張って、何が起こるのか？

A：来年も確実に増益基調でいけるのはガラスディスク。それ以外の生産財のところは全般的にピークを超えて少し苦しいですが、ガラスディスクは環境が違うので、さらに大きくなる要素があると思います。また、今まで、もたついていて皆さんにご迷惑をおかけしてきた消費財分野をもうひとまわり大きくできる環境になったかなと思っています。

Q：現預金残高の理想イメージとして、売上の何ヶ月分とか絶対額でなにかあれば教えて欲しい。

A：基本的には、企業は現金はゼロが良い。ただ流動性があるので、少なくともその月の総支払いをまかなえるくらいは必要で、今は300億円くらいです。現在、現金残高が900億円ちょっと超えるくらいなので、約600億円は、買収等に回せるお金という概念です。

減価償却費と当期利益で、設備投資は十分賄えるので、通期では余剰がまだ出るでしょう。

来期は設備投資を少し絞るので、M&A等を実行していきたい。半分は自己資金で半分はデ

ットで調達してレバレッジを効かした方が企業収益の増分という点では良いので、そんな環境が出来ればよいと思っています。

私達は企業価値を上げるような投資を一番大事に考えています。株主の方も一時的に配当を少し多くもらうよりも、長期的に企業価値を上げてキャピタルゲインを得たほうが良いでしょう。

それでも余剰で残る場合は増配等を考えていきたいです。

Q: 600 億円をすぐに自社株取得にまわす可能性もゼロではないということか?

A: それは検討の中の一つであるということで、実際はしたくても当社株式の売り手がないのが現状です。市場から 600 億円分買ったなら株式の流動性がなくなってしまいます。

Q: 4Q は営業減益見通しとのことだが、EO の立上げ費用は 4 Q も発生するのか? また、来期に製品ごとにどのように底打ちをするのか?

A: 新しい増産設備が立ち上っていきます。物量ベースでは、減るとは思っていませんので、工場は稼働します。しかし単価が下がってくるので、収益を圧迫する方向へ向かうと思われれます。数量が増えても売上が増えないというのが、4 Q から来期 1 Q へかけてのイメージですが、今は単に立上げ費用が計上されているだけなのに比べれば、良くなる方向です。4 Q は数字的にはボトムになるでしょうが、収益的に大きく落とすということでは必ずしもないと思います。

どこで底打ちをするかという、デジカメは 4 月からもう一度造り始め、来期も今年並みの生産はあると思います。半導体は底は打ったと思いますが、大きく上がってくるような要素はしばらくはない。液晶は数量は伸びていくが、単価が落ちついてきたりコストが下がったりするのはまだ先と思います。

Q: EO の製品それぞれ 4 Q のイメージを教えてください。

A:	4Q/4Q	3Q/4Q	y/y (年間)
マスクブランク	+ 11%	フラット	+ 10.4%
LSRマスク	+ 7.6%	フラット	+ 6.2%
LCDマスク	+ 5.0%	フラット	+ 23.7%
HDD用ディスク	+ 60%	フラット	+ 92.7%
光学	20%	19%	+ 3.7%

Q: 3 Q の EO の営業利益額は 2 Q 対比で 14 億円減益だが、マイナスに寄与した製品は?

A: 液晶マスク、ブランク、光学。HDD ディスクは増えています。

Q: 売上高と当期利益の予想は、コンセンサスを参考に作られた様子だが、営業利益は 876 億円くらいがコンセンサスだったが、今回 850 億円で出されている。コンセンサスより低いのが?

A: 当期利益予想のコンセンサスは 620 億円でしたが、これでは営業利益が 870 億円にはならない。いただいたコンセンサスがメイクセンスしていないところがありました。当社は当期利益を重視して算出したので、その結果営業利益が 870 億円にはなりません。

本資料中には将来の当社の業績・当社を取り巻く業界の環境に対する予想の部分があります。これは当社および当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおり、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。従いまして、これらの予想の部分に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績・業界環境は、様々な要素により、これら予想とは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果に対する責任は負いかねますのでご了承ください。